

第 1 章

推進計画の基本的な考え方

今後、府立高校が府民の期待にこたえ、生徒にとって魅力ある高校として一層発展を遂げていくためには、個々の高校の特色とその果たすべき役割をより鮮明にしていくことが必要です。

府立高校の教育が全体としてよりよいシステムを形成することを目指した改革の方向性を示します。

1 府立高校の教育の在り方

社会の変化 への対応

今日、我が国の社会は、少子高齢化の急速な進行、地球規模での環境問題の深刻化、情報通信技術や生命科学をはじめとする科学技術の高度化、経済構造の変化やグローバル化の進展など、これまでに経験したことのないような大きな転換期にあります。

一方、人々の意識や価値観も多様化・相対化が進み、物質的な豊かさよりも心の豊かさを重視する傾向が強くなり、我が国の社会システムについても、主体性や個性が尊重されるシステムへの再構築が求められています。

これからの府立高校の教育は、21世紀社会を主体的に担い、豊かな心を持ち、たくましく生き抜く人間を育成することを重視し、変化の激しい社会に柔軟かつ的確に対応する能力や資質の育成に努めることが求められています。

生きる力を 育てる教育

基礎・基本を徹底して学力の充実・向上を図る教育、個性を生かす教育、進路を開く教育を進め、一人一人の社会的な自立を促し、個性・能力を伸ばす取組を総合的に推進します。

自ら考え、主体的に判断し、表現したり、行動したりすることができる資質や能力を育成します。

基本的人権尊重の精神や道徳性のかん養を重視し、人権教育や道徳教育を積極的に進め、よりよい人格の形成を促し、豊かな人間性をはぐくみます。

健全な心身の発達を促し、生涯を通じて、体育・スポーツ、芸術文化活動に親しむことができる能力や態度、心情を育成します。

このように、豊かな心を持ち、たくましく生きるなど「生きる力」の育成を基本とした教育を進めます。

21世紀社会 を担う人間を 育てる教育

時代を超えて変わらない価値あるものを大切にしながら、新しいものを柔軟に摂取し、社会の変化に的確に対応できる教養と創造性にあふれる人間を育成します。

これからの我が国の社会、経済、文化の豊かな発展に寄与し、よりよい環境の創造のために主体的に行動するなど、21世紀社会の諸課題に積極的に取り組み、21世紀社会を主体的に担う人間を育成し

ます。

グローバル化が進展する中で国際社会に生きる基礎的資質や急速に発展する科学技術に対応した能力を養います。

一人一人の能力や個性を最大限に伸ばす教育

能力・適性、興味・関心、進路希望などにおいて多様な生徒が入学していることを踏まえ、全日制・定時制・通信制の各課程それぞれの在り方を見直したり、学科などの多様化、履修形態の弾力化、教育内容・教育方法の創意工夫を進めます。

個に応じたきめ細かい指導を徹底して、学力の充実・向上を図り、生徒一人一人の能力や個性を最大限に伸ばす教育を進めます。

高校入学後の進路変更や高校生活への不適應にもきめ細かく対応できるよう、それぞれの生徒の適性や可能性を見出しこれを生かす指導を進めます。

2 府立高校改革の基本的な方向性

新しい多様で柔軟な教育システムの構築

府立高校では、昭和60年度の高校教育制度の改善以来、普通科の通学圏の設定、類・類型の導入、専門学科の充実など、生徒一人一人の能力や個性に対応した多様な教育を進め、大きな成果を上げてきました。しかし、社会の急速な変化、人々の価値観や生き方の一層の多様化に伴い、同一の学科、類型にあっても、能力・適性、興味・関心、進路希望などにおいて様々な生徒が入学しています。

入学した生徒の多くは、学業や部活動、生徒会活動その他高校での諸活動にそれぞれ意義を見出し、積極的な高校生活を送っており、また、進学や就職に関しても、目的意識を持って学習に励んでいます。

しかし、一部には学習でのつまずきや集団生活への不適應、あるいは進路の変更などを理由に中途退学する生徒や、進路や生き方が定まらず意欲的な姿勢になりきれないでいる生徒もいます。

これからの府立高校では、このような多様な生徒一人一人に対してよりの確に対応し、個々の生徒の能力や個性を最大限に伸ばし、生きる力を培い、それぞれが希望する進路を実現し、豊かな生涯を送る上で必要な様々な資質をはぐくむ教育を推進することが求められています。このため、学科などの一層の多様化や履修形態の弾力化などを進め、府立高校全体として「新しい多様で柔軟な教育システム」を築いていく必要があります。

創意工夫を生かした教育活動の展開

府立高校が全体としてよりよい教育システムを形作るためには、課程、学科、履修形態などの枠組みを改善するとともに、各高校の主体的な判断と取組によって、教育課程・教育内容の特色化を図り、多様な指導方法を工夫し、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望などにきめ細かく対応し、生徒一人一人が日々充実した高校生活を送れるよう工夫していくことが大切です。

また、府立高校では、生徒の心を理解し、意欲と情熱を持った確かな指導力のある教員を養成することや、保護者や地域住民の意向を学校運営に的確に反映させたり、地域社会と連携した様々な教育活動を展開し一層開かれた学校づくりを進めたりするなど、府民の信頼を高める学校づくりを一層推進することが重要です。

主体的な選択
ができる入学
者選抜制度へ
の改善

各高校が特色を鮮明にし、府立高校全体として多様な教育内容を提供することができるように改善を進めます。このことと併せて、生徒がその能力や適性などに合った教育を受けることができるよう、希望する学校・学科などを主体的に選択できる入学者選抜の方法や通学区域を実現することが必要です。

生徒数の減少
と高校の適正
規模の確保

京都府の中学3年生の生徒数は、昭和62年度の43,160人をピークに年々減少を続けており、今後、平成16年度にはピーク時の約55%にまで急減し、さらに平成20年度頃までゆっくり減少を続け、その後は微増微減を繰り返しながら推移するものと見込まれます。

このような中で、現在の府立高校の配置状況のままでは、学校の規模が小さくなり、生徒の多様な学習希望に対応できなくなることや、集団の中での切磋琢磨や相互啓発の機能が低下し、学校の様々な活動における生徒の意欲が高まりにくくなることなどが懸念されます。

このため、各高校の教育内容の多様性や、集団の中での人間形成の機会を維持することなどに視点を置いて、府立高校全体の教育システムの多様性の確保と質的充実を図ることに努めながら学校規模の適正化に向けた取組を進める必要があります。

3 府立高校改革の全体像と施策の展開

府立高校改革の全体の姿と、改革を進めるに当たっての主な施策の展開を図示すると次のようになります。

府立高校改革の全体像と施策の展開図

